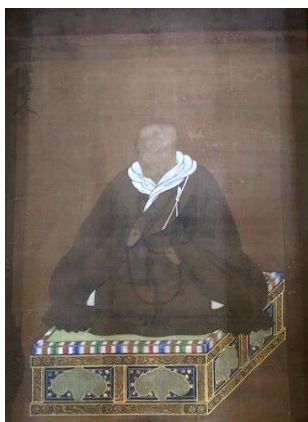


じょうけい

真宗大谷派 至徳山 浄慶寺



本堂内陣 親鸞聖人絵像



本堂内陣 蓮如上人絵像



本堂内陣 教如上人絵像



本堂内陣 七高僧絵像

「五劫思惟」

浄慶寺住職

大塚 展彦

日頃よりお世話になっております。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

私ども真宗門徒にとって大切な聖教である「正信偈」には、「五劫思惟之摂受」という文章があります。真宗の本尊である阿弥陀如来は、昔、法蔵菩薩という修行僧でした。その菩薩が苦悩する全ての衆生(生きとし生けるもの)を救うために、浄土建立の願いを発されました。その後、兆載永劫の修行を終えて願いが成就して如来とされました。また、法蔵は願を発す時に全ての衆生の救済について深い思索に入られました。その思索は「五劫」という時間でした。「五劫」とは、「横幅160km、高さも160kmという巨大な岩石(富士山より大きな岩)があるとして、その岩のそばを羽衣を身にまとった天女が100年(あるいは1000年)に一度通りかかり、羽衣の袖がサッと岩に触れる。羽衣の袖によって岩がすり減って無くなるまでよりも長い時間である「1劫」の5倍の長さです。

それほどまでに長い時間をかけて考えなければならなかったのは、なぜでしょうか。

「正信偈」には、「五濁悪時群生海」とあります。「五濁」とは、①劫濁(時代・世代の経過に従って濁りが増す)、②見濁(人間の見識に濁りが増す)、③煩惱濁(人間の欲望に濁りが増す)、④衆生濁(生きとし生けるもの全てに濁りが増す)、⑤命濁(命が濁る・命の大切さや純粹性を保つ事ができない)という5つの濁りです。

法蔵菩薩が歴史を見ると、人類は発展しているのではなく、むしろ、後退を続けている。時の移り変わりと共に人間の愚かさは増しています。そうした人類、私たちの抱える煩惱の深さに対して、どのような導きがあれば、自らの誤りに気付き、仏の教えを聞くようになるのか、往生成仏を考えるようになるのか、考えても、考えても、それは、難しい、しかし、諦める訳にはいかない。そう考える事、五劫…。

コロナによって世界中の人々が苦しみの中にあります。親鸞聖人は、私たちの心の中には濁りが沢山あるけれども、もっともっと心を深く掘ると、法蔵菩薩の苦悩として經典に表現される心が私たちの心の中には濁りが沢山あるけれども、もっともっと心を深く掘ると、法蔵菩薩の苦悩として經典に表現される心が私たちの心の奥底にもあると説かれました。大菩提心です。

私一人の考える時間には、制限がありますが、両親、祖父母…とご先祖の苦悩してきた時間を思う時、法蔵菩薩の物語は、人類が歩んできた困難な歴史として、私にもその歴史がつながっている事を表現しているように思います。

体験談

—小さいおじさん—

浄慶寺 門徒 藏ノ下博之

我が家には小さいおじさんがいます。一緒に暮らすようになり早いもので13年になります。

13年前には長女が11歳、次女が7歳と二人とも小学生でした。

学校から帰ってくると、すぐに小さいおじさんを取り合うようにして子供部屋に連れていき、その日の楽しかったこと、辛かったことを、話していたようです。

小さいおじさんは、嫌な顔一つせずに、黙って子供たちの言葉を聞いてくれていました。

話がすべて終われば、子供たちもすっきりとしたようで、おかげで体も心もすくすくと育ってくれました。

誰かが家を出るときは、いつも見送ってくれます。そして誰かが帰宅すると、一目散に出迎えてくれます。夜になると、子供たちと一緒に添い寝をしてくれていました。

子供が風邪で熱があると、心配そうに枕もとでずっと様子を見てくれ、風邪が治ると、小さいおじさんは、いつもの定位置でのんびり日向ぼっこをしています。

今は夫婦二人の生活になり、私たち夫婦の話し相手になってくれてあります。

相変わらず、何も言わずに私たちの言葉に君を傾けてくれます。

夜になると、私たち夫婦と川の字で寝ています。時々私に小さな背中を見せながら、寝ていることがあります。

小さいおじさんの名前は、「どん」。ポスのようであってほしいから、「ドン」。

しかし、小さいおじさんにはその重責は無理だったようで、その後はどんくさいから、「どん」になってしまいました。

小さいおじさんは、13年前にはミニチュアダックスの真っ黒な子犬でした。

今ではおじさんからおじいさんになり、体も茶色や白髪が混じるようになりました。

しかし、いつも無言でひたすら私たちの言葉を聞いてくれます。ありがとう、小さいおじさん。

追伸 我が家の小さいおじさん「どん」は2020年5月9日に亡くなりました。

当日は、次女とベッドで一緒に寝ていました。朝起きると、いつものように自分のゲージに歩いていく姿を見せていました。しかし、ゲージに向かう足取りはよろよろとしており、たどり着くと、ぼったりと倒れるように横になりました。

ただならぬ様子にすぐに動物病院へ連れて行きましたが、数時間後に苦しむこともなく息を引き取りました。翌日は義母の1年忌という日です。きっと義母が、“どんちゃん、そろそろお婆ちゃんのところに来てくれないかな”と呼んだのかもしれない。

13年もの間、家族全員に沢山の心に栄養になる思い出をくれてありがとう、どんちゃん。

合掌

ご命日のつどいへのお誘い

毎月28日には、午後1時30分より親鸞聖人のご命日のつどいを、本堂にて開催しています。親鸞聖人のご命日が28日であります処から、この日に門徒がつどい、正信偈を、お勤めしています。

また、読経の練習や写経なども行っています。

どうぞ自由に参加してみてください。

時間 13:30~16:00頃まで (※出入り自由です)



真宗（大谷派・東本願寺）への導き 《第十六回》

聖徳太子（しょうとくたいし）

親鸞聖人は聖徳太子をたいへん尊敬され太子を讃迎する和讃を多く制作されています。

わこく きょうしゅ しょうとく おう
和国の教主聖徳皇
こうだい おん とく しゃ
廣大恩徳謝しがたし

【現代語訳】

日本国の教主であ聖徳太子の恩徳は、広大であり、
どれだけ感謝してもしきれない。



本堂内陣 聖徳太子絵像

「教主」とは、本来仏教の開祖である釈尊をあらわす言葉ですが、親鸞聖人は、聖徳太子を「和国の教主」と呼んで、日本仏教の開祖であると讃迎されました。

聖徳太子は、五七四年（敏達三年）に、用明天皇の皇子として誕生し、厩戸王子、上宮太子、上宮法王とも呼ばれました。

推古天皇の即位のとき、皇太子として摂政をつとめ、十七条憲法を制定するなど、仏教を根本理念として、国政をおこないました。

また、法隆寺をはじめとする寺院の建立や『三経義疏（さんきょうぎしょ）』を著わすなど、仏法の興隆に生涯をつくされました。

親鸞聖人は、二十九歳のとき、そのようなありし日の聖徳太子を慕って、太子創建とされる六角堂に参籠されました。実は、十九歳のときにも、磯長（現在の大阪府南河内郡太子町）にある太子の御廟に参籠されたという伝説が残っています。

聖徳太子は、仏教を中心とする理想の社会をつくろうとし、深く仏教に帰依されましたが、聖徳太子自身は在家のままでした。

親鸞聖人は、そのような聖徳太子の姿に、それまでの出家中心の仏教とは違う、新しい仏教のあり方を求めていかれたと思います。

出典：真宗大谷派宗務所資料

本堂で通夜・葬儀ができます

お寺本堂での通夜・葬儀を希望する場合は以下の手順です。

- ①お寺（住職）に、ご一報をお願いします。（住職携帯電話：090-2318-3268）
 - ②下記の何れかの葬儀社に『浄慶寺の門徒です。本堂でお通夜・葬儀を依頼します』とお伝え下さい。
 - ◇みんせい葬祭・福岡市博多区大博町（担当者：竹内）
092-271-7422（24時間受付）又は090-1342-0006（24時間受付）
 - ◇お葬式のあおやぎ・福岡市早良区飯倉（担当者：龍相＝りゅうそう） 092-865-4400（24時間受付）
- ※本堂でのお通夜の時間は、午後10時までとさせていただきます
 ※お寺での宿泊は出来ませんので、ご了承ください。
 ※お通夜のみ、自宅か葬儀社斎場での執行で、葬儀は本堂での執行も可能です。



行事予定

- 春彼岸法要 3月20日(祝・土)
13時30分から
- 永代経法要 5月15日(土)~16日(日)
- 盂蘭盆会法要 8月13日(金)~15日(日)
- 秋彼岸法要 9月23日(祝・木)
- 報恩講法要 11月13日(土)~14日(日)
- 宗祖親鸞聖人のついで
毎月28日・13時30分より

文芸欄

※このコーナーに、川柳・短歌・俳句などを、お寄せください。

カラフルに埋める私の持ち時間

ほろ酔えば今夜も月に抱かれる

失敗談ひとつで和む午後の席

煮崩れた丸い私を好きになる

川柳

山口由利子

坊守のついで

皆様、今日は。4月は様々な事が新たに始まる季節ですね。また、そこでは様々な挨拶が交わされます。その中でも普段よく交わす「今日は」という挨拶の言葉について考えてみたいと思います。

さて、「こんにちは」というのは元々「今日はご機嫌いかがですか」などと日中に出会った人に話しかけていたのが、後半部分が略され定着したそうです。

また、「今日」という言葉は、真宗の根本経典『仏説無量寿経』に、阿難が釈尊に語りかける言葉として「今日、世尊、諸根悦予し姿色清浄にして、光顔魏魏とまします」とあります。これは、長い間、釈尊に付き従ってきた阿難が、これまでと全く違う釈尊の威厳に気付いた瞬間の場面で「今日」の「今」その時に受けた感動の言葉であり、阿難の目覚めを表します。このことは、親鸞聖人も、著作の『教行信証』で引用し、とてもとても大切にされています。

よく考えますと「今日」を迎えられるという事は、当たり前のようにいて実は奇跡のような事です。お互い無事であるからこそ交わせる言葉とも思えますし、人と会わないと交わさない言葉でもあります。互いが出会った瞬間に交わす「その日その時」の挨拶です。

また、「今日」という日は、昨日でも明日でもない新たな1日であり、「今」の連続です。ただ一度きりの「今日」です。

人と出会う度に「今日は」の挨拶ができることは有難いことですね。



☆お寺インフォメーション☆

☆「お参りした時に、ちょっとつぶやきたい！」というリクエストに応じまして、『ぶつぶつノート』(仏仏ノート)を本堂に置いています。お参りの時に自由にメッセージを残して下さい。

☆カラスや犬などが墓地を荒らしますので、お酒やジュース、おまんじゅうなどの生もの等のお供物は、ご参詣の後に、お持ち帰り下さいますようお願いいたします。



じょうけい 第16号

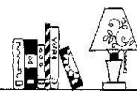
《発行》

真宗大谷派 浄慶寺 大塚展彦
浄慶寺門徒会 川嶋正實

〒810-0063
福岡市中央区唐人町3-10-49

《編集》

浄慶寺寺報編集担当 塩川大一



編集後記

4年間、じょうけいの編集を、させて頂きました。長いあいだ支えて頂きましてありがとうございました。最後に、拙歌を一首。

浄慶寺 ながき歴史を たずさえて

あゆみつづける 門徒とともに